

環境負荷低減を追求し ライスイnkを製品化。

オフィス用プリンターを開発・製造・販売する理想科学工業が、プリンターの品質向上に加えて力を注いできたのが製品の環境負荷低減だ。今回、同社が製品化した孔版印刷機用ライスイnkの開発経緯について話を聞いた。

廃棄される資源の 活用に着目

ライスイnkは米ぬか油を原料の一部として使用したインクだ。既に他業界のオフセット印刷機ではライスインキが採用されている。理想科学工業ではオフィス用孔版印刷機の新製品リソグラフSFシリーズのRISOインクFタイプとして製品化した。

商品企画を担当する柴田氏によれば、「当社では国産の米ぬかを使用することで、油の原料を海外から輸入していた時と比べ、輸送距離を短縮しました。これにより輸送時に発生するCO₂排出量が約87%低減できます」。

さらに米ぬかは廃棄されることが多いため、資源の有効活用にもつながるといふ。

「当社の孔版印刷機リソグラフをお使いで、環境配慮に関心の高いお客さまの反応から、評価いただける製



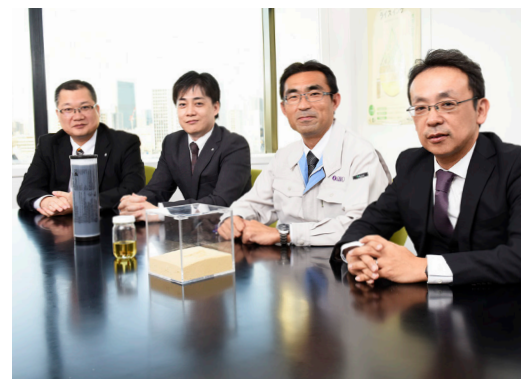
品が完成したという手応えを感じています」と、商品企画の近野氏は語る。

オフィス用プリンター として世界初

理想科学工業では、早期に米ぬか油の特性に着目し、オフィス用プリンターとしては世界初のライスイnkを開発した。

「環境負荷の低減と同時にお客さまが安心して使っていただけるインクを提供したいと思っています。保存性や印字の変質において改良の余地があると思いい、研究をしてみました」と開発の星野氏。米ぬか油は酸化しにくい性質を持っているため、劣化が少なくRISOインクFタイプの推奨使用期限を延長することが可能になった。また、印字部分の変質を低減し、長期保存時も良好な画質を保つことができるという。

「原材料のベストな配合にたどり着くまでに多くの時間を要しました」と開発の星野氏。これまで培ってきたノウハウ



(写真左から) 事業戦略部 近野氏、事業戦略部 柴田氏、開発本部 星野氏、環境活動推進部 川邊氏

があるとはいえ、新しい素材を使うとなると何十というテストをゼロベースから行う必要があったからだ。従来品と同等の印字品質を確保して保存性の高い配合率にするために試行錯誤を重ねた。さらに新製品のSFシリーズだけではなく、一部の機種を除いた既に設置されている印刷機にも使用できるようにインクの対応機種の評価を行ったという。

環境と向き合う企業に 最適な製品を提供

環境活動を担当する川邊氏は「CO₂排出量の低減は地球温暖化の抑制に貢献しています。地球温暖化以外にも、水不足等、環境に関わる問題は様々です。そのような問題に対して米ぬか油を使うことがどのように貢献しているか、検討することが重要だと思っています」と語った。



RISOインクFタイプは、ライスインキ・コンソーシアムが承認するライスインキマークを取得しました。



お問い合わせ

理想科学工業株式会社

本社 / 〒108-8385 東京都港区芝5-34-7 田町センタービル

お客さま相談室 / ☎ 0120-534-881

受付時間 / 10:00~12:00・13:00~17:00(土・日・祝日・夏期休業・年末年始を除く)

ホームページ / <http://www.riso.co.jp/>